

ふじみ衛生組合からのお願い

『水銀が含まれている廃棄物の処理』について

水銀を含む廃棄物は『有害ごみ』です！

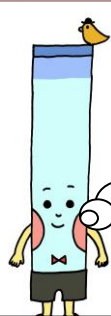
水銀は、体温計や血圧計、蛍光灯など生活の身近なところで使用され、わたしたちの暮らしに役立ってきました。また、他の金属と容易に混合する特性を利用して、銀やすず等と合金を作ってむし歯治療の充填剤としても使用されてきました。

しかしながら・・・

水銀が人体に取り込まれることにより、急性から慢性まで様々な中毒症状が現れます。

水銀は容易に気化することから地球規模での循環があり、“バクテリア・プランクトン→小魚→より大きな捕食魚→動物・人間”等といった食物連鎖による生物濃縮が問題視されています。

このようなことから、水銀は環境への排出がないように慎重に扱うことが大切です。



分別することがとても重要なんだ！！

そこでみなさんに改めてお願いがあります。

近年、公害問題への配慮から水銀の利用は減りましたが、現在でも多くの分野での利用があります。

水銀を含む廃棄物は、『有害ごみ』として分別し、指定された収集日に出すようにご協力をよろしくお願いします。

昔の用途

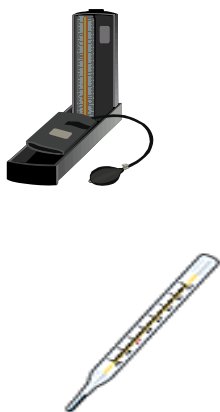
メッキ、アマルガム、農薬、火薬、医薬品、苛性ソーダ製造、乾電池

現在の用途

蛍光灯、水銀ランプ、水銀電池、銀電池、水銀スイッチ、水銀リレー、計器類、ワクチン防腐剤（チメロサル）、顔料など

体温計／血圧計

以前は水銀式が普及していましたが、現在は、電子式が普及しています。



蛍光管

蛍光管の中に微量の水銀が封入されていますが、1本あたりの水銀量は1975年代の約50mgから2005年の約8mgに減少しています。

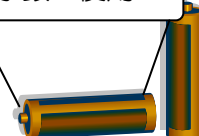


乾電池／ボタン電池

乾電池は1992年に水銀が使用されなくなり、水銀電池は1995年に生産が中止されました。現在、ボタン電池に微量の水銀が使用されていますが、電気店や時計店、カメラ店などで回収し、リサイクルされています。

電池本体の表示例

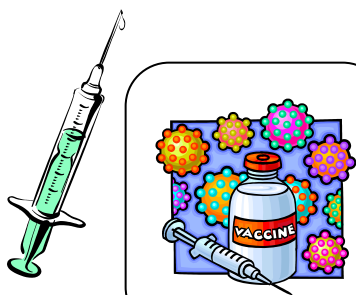
水銀〇使用



ボタン電池

ワクチン

防腐剤として「チメロサル」という有機水銀を含む消毒剤を使用してきました。近年はチメロサルの使用量を減少した製品や使用しない製品が登場しています。



むし歯治療充填剤 (水銀アマルガム)

1970年には国内で年間約5.2トンの水銀が使用されてきましたが、1999年には年間約0.7トンに減少しています。



消毒剤・医薬品・化粧品 農薬等

消毒剤は、1973年に製造が中止されました。(海外製造の原料を輸入し、販売されているものもあり)また、水銀を用いた医薬品や化粧品、農薬への使用は1974年に禁止されました。

